

平成26年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
学習指導の工夫改善に関する研究グループ

1 委員名簿

主任・副主任	研究主任・副主任	研究員
--------	----------	-----



2 前年度までの研究内容

研究内容	学校力向上事業との連携	◎年度の重点	
		24年度	25年度
研究内容1 全国学力・学習状況調査の活用に関すること			
○各学校における結果分析，指導改善プランの作成	(1)-①	○	○
研究内容2 学力向上事業の活用に関すること			
○基礎力UP チャレンジテストの全市的な分析	(1)-② (1)-④	◎	◎
研究内容3 学習指導の充実に関すること			
○学びの環境づくり	(1)-④，(2)-②	○	◎
○巡回指導等の加配教員の効果的な活用	(1)-②，(3)-①	◎	
○習熟度別学習		◎	

3 研究内容

<柱1> 学習規律の徹底（名寄市学習規律10項目）

<柱2> 道徳指導案（「名寄岩」の読み物資料）の作成及び授業実践（小学校6年）

4 取組概要

- <4月28日> ○第1回名寄市教育改善プロジェクト委員会
○第1回グループ会議
・研究活動の内容と計画確認
- <5月21日> ○第2回名寄市教育改善プロジェクト委員会
○第2回グループ会議
・学習規律の徹底と学習習慣の確立に関する研修
（講師：山田教頭先生，貞弘教頭先生）
- <8月28日> ○第3回グループ会議
・名寄市学習規律の2学期の重点確認
・道徳指導案及び「名寄岩」の読み物資料の検討①
- <10月30日> ○第4回グループ会議
・道徳指導案及び「名寄岩」の読み物資料の検討②
- <11月27日> ○第5回グループ会議
・授業公開（名寄南小6年2組松田学級）及び授業反省
- <12月 9日> ○第3回名寄市教育改善プロジェクト委員会
- <1月21日> ○研究のまとめ答申
- <1月29日> ○名寄市教育研究集会（成果の発表）
- <2月18日> ○第4回名寄市教育改善プロジェクト委員会
・平成26年度の取組，答申内容について
・平成27年度の方向性について

学習規律の徹底と学習習慣の確立について

名寄市立東風連小学校 教頭 山田 裕司

1 はじめに

- ・学習指導の工夫改善に関する研究
- ・発達段階を考慮し、学校として統一した取組
(担任が変わっても、同じ取組によりスムーズな授業が期待できる)

2 学習規律の徹底

(1) 学習規律の必要性と確立

- ①学習に集中する環境づくりの取組
- ②意図的・計画的・継続的な指導
- ③毅然とした指導と発達段階に応じた指導

(2) 学習規律と生活規律

- ①学習指導と生徒指導は相乗関係

(3) 徹底に向けた7つの取組ポイント

- ①重点項目を絞る
 - ・まずは、……。次に、そして……。
 - ・特に、この3点が…。
- ②誰もが分かる
 - ・全教職員が、保護者が、地域の人が、他校の先生が
 - ・掲示物、ガイドブック、ハンドブック
 - ・学級通信、学校だより
- ③共通理解と共通実践
 - ・まずは、共通理解。そして、共通実践！
 - ・話しただけ、作成しただけ、掲示しただけでは
 - ・同じ規準で、同じ判断を→子どもたちも安心
- ④最初が肝心！
 - ・学年始め、学期始めの指導が重要
 - ・大きな行事後も仕切り直しのチャンス
- ⑤チェックの機会を！
 - ・どの程度身に付いているか。また、どの程度意識しているか。
 - ・教職員のみならず、子どもたち自身の自己評価、他者評価など多面的に
 - ・授業交流等、担任以外の目で
 - ・結果を表やグラフで「見える化」して知らせる

- ⑥根気強く、繰り返す
 - ・ほめる，指導する，励ますなどの繰り返し…意欲の持続化
 - ・些細な変化も見逃さない，タイムリーな声かけと指導
 - ・目立たないけど継続して取り組む姿にも着目
- ⑦連携と協力
 - ・小中のなめらかな接続と指導の継続が子どもに安心を…
 - ・小中の積極的な情報交換が重要
 - ・学校の取組の積極的な情報発信が，学校・家庭・地域一体となった取組へ

(4) 名寄市学習規律（10項目）の徹底～私の実践から

- ①チャイムがなったら・・・先生が遅れない。遅れた時は，？の覚悟。
- ②学習の始めの・・・忘れ物は朝に報告。挨拶は繰り返さない。
- ③正しい姿勢・・・先生の姿勢に注意。声かけ項目のポイント。
- ④はっきり返事・・・返事の重要性和語尾の大切さの強調。
- ⑤話す人を見ながら・・・人数で，素早く評価。
- ⑥むだ話や手・・・その時間を多く与えない学習の流れと内容の工夫
- ⑦必要のないもの・・・授業始めの全体，グループ，ペアチェック
- ⑧学習中，勝手に・・・教室外でも必ず伝える習慣。
- ⑨学習の終わり・・・時間でビシッと終了。挨拶は繰り返さない。
- ⑩学習用具を・・・椅子入れ，次の準備の確認を全体で。

3 学習習慣の確立

(1) 学習習慣の必要性

- ①学力を支える基盤づくりの取組
- ②意図的・計画的・継続的な指導
- ③家庭への積極的な情報発信，提供

(2) 確立→徹底→定着

- ①家庭学習の「習慣」を確立することが第1歩
 - ・先生の声かけ，励ましのひと言は，不可欠
 - ・全体への紹介（掲示など）で，達成感…次への意欲化
 - ・努力した成果が実感できる手立て
- ②徹底は，揺るぎなく，毅然と
- ③定着までの期間は長いと認識

(3) 家庭の重要性

- ①学習習慣には，家庭の協力が不可欠
- ②生活リズムの確立も併用
 - ・一日の生活の中で学習時間を設定
- ③保護者が参加できる学習習慣確立の取組
 - ・家庭学習カードへの記入欄，チェック欄
 - ・通信，懇談会での「声」「アンケート」

4 終わりに

- ・定着まで終わりなく

急務 学習規律の徹底

名寄市立風連中央小学校 教頭 貞弘真悟

1. なぜ『学習規律の徹底』が必要か？

(1) ご存知！ 今は学力向上が喫緊の課題です。

学力向上⇒・支え合い高め合う集団づくり

・落ち着いた雰囲気の中で学習に集中することができる環境づくり

・学習時間の確保

(2) 学校現場の実態（子ども・保護者・地域の目）

○小学校

○中学校

学級担任制＝学級によって取組の差

教科担任制＝教員によって取組の差

○小学校⇒中学校

学校による取組の差

同一步調の『学習規律』は有効

2. 基本的な考え方は？

(1) 教師の意図的・計画的な指導

(2) 子どもたちの守るべき学習規律は、教師が守るべき指導の規律でもあります。学校内の教師間の共通理解や全教師による共通実践

3. どのように取り組む？

(1) 何からやるか！

☆本校は（うちの学年は、うちの学級は）、どこが特に不十分なんだろう？

⇒「名寄市学習規律（10項目）」の中で、最優先取組事項の明確化

(2) みんなで取り組もう！

☆「学習規律」取組状況の交流

⇒校内研修の利用（進捗状況・悩みなど）

(3) 「忍」の一文字！

☆1回話しただけでは、到底完成せず

⇒できたら褒め、できなかつたら指導することの繰り返し。かけた時間分、後で何倍もの時間が生み出されることを信じて＝学習時間の確保

(4) 振り返って取組の改善を！

☆取組を振り返ることが大切（次に生きる）

⇒児童アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価→項目に設定

(5) 全市一緒に！ ※「すごいぞ 名寄」

☆小中同じ歩み

⇒中学校入学時の子どもたちの安心につながる

(6) 見える指導！ 見える宣伝！

☆このようなことに力を入れています！ 子どもには指導、保護者・地域には宣伝。

⇒「学習規律」の掲示、姿勢・机上の写真を掲示→可視化 学級通信・学校だより

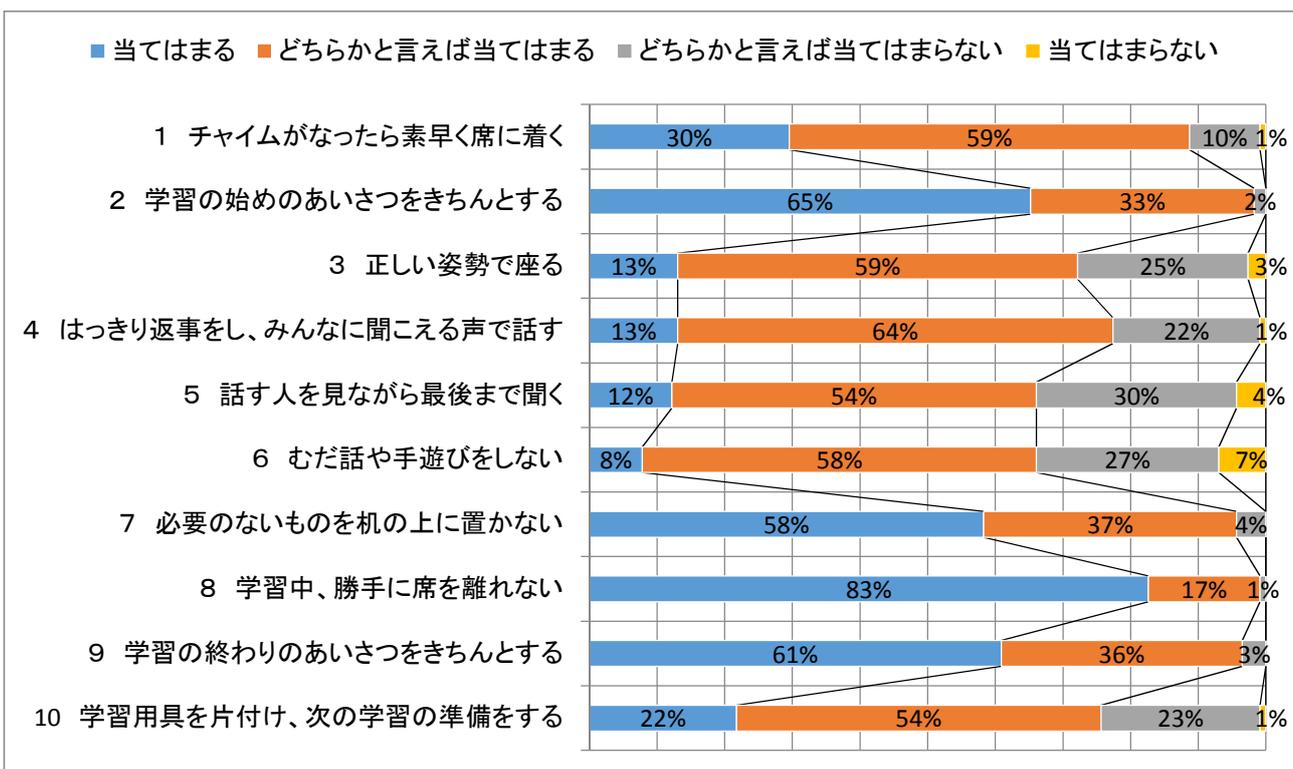
名寄市全小中学校の全学年・学級で学習規律を徹底し、落ち着いた学校づくり、スムーズな小・中接続、学校の重責である学力向上を目指そう！

名寄市教育改善プロジェクト委員会「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」
「学習規律に関するアンケート」集計表

対 象	小学校教員
実施時期	6月期

○ 学習規律に関するアンケート結果

項目	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
1 チャイムがなったら素早く席に着く	30%	59%	10%	1%	100%
2 学習の始めのあいさつをきちんとする	65%	33%	2%	0%	100%
3 正しい姿勢で座る	13%	59%	25%	3%	100%
4 はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す	13%	64%	22%	1%	100%
5 話す人を見ながら最後まで聞く	12%	54%	30%	4%	100%
6 むだ話や手遊びをしない	8%	58%	27%	7%	100%
7 必要のないものを机の上に置かない	58%	37%	4%	0%	100%
8 学習中、勝手に席を離れない	83%	17%	1%	0%	100%
9 学習の終わりのあいさつをきちんとする	61%	36%	3%	0%	100%
10 学習用具を片付け、次の学習の準備をする	22%	54%	23%	1%	100%



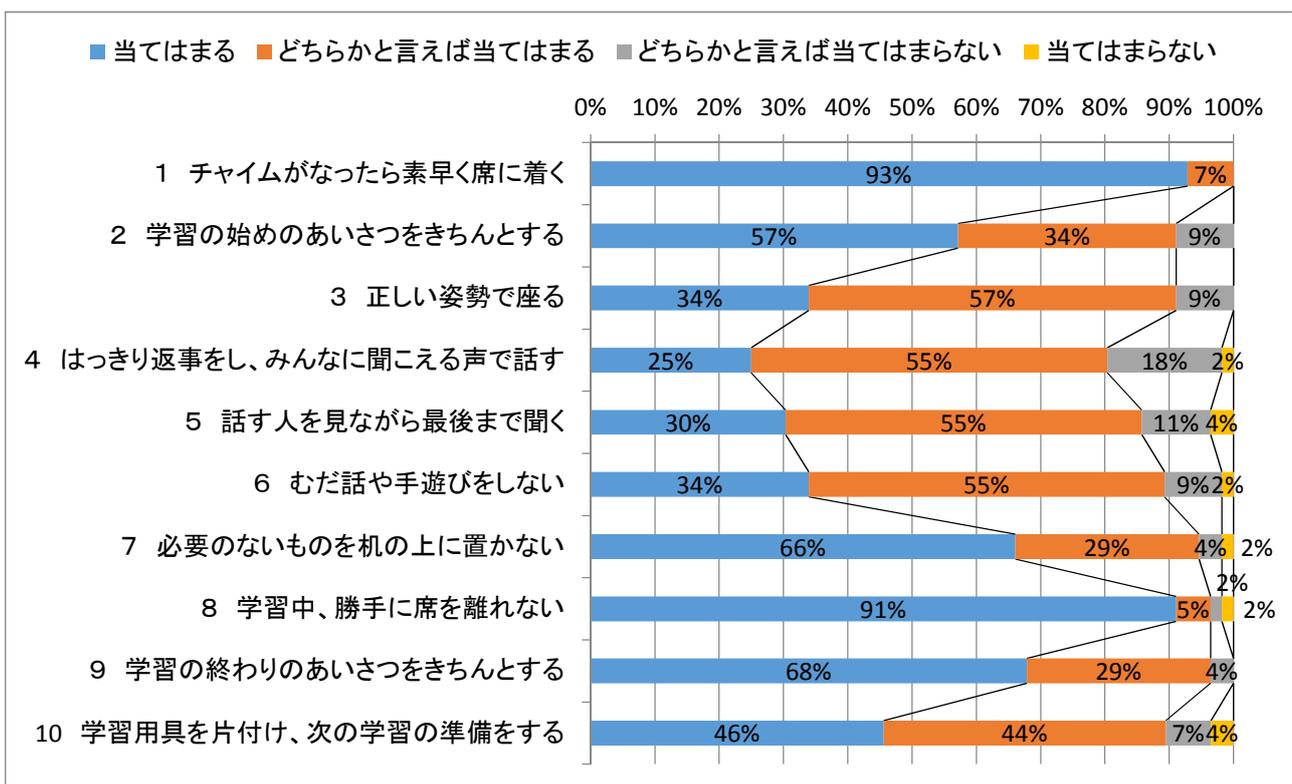
「学習規律に関するアンケート」集計表

名寄市教育改善プロジェクト委員会「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」

対 象	中学校教員
実施時期	6 月期

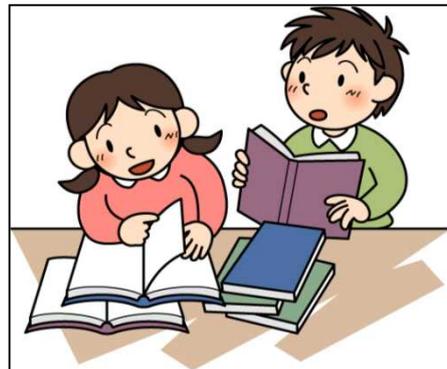
○ 学習規律に関するアンケート結果

項目	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
1 チャイムがなったら素早く席に着く	93%	7%	0%	0%	100%
2 学習の始めのあいさつをきちんとする	57%	34%	9%	0%	100%
3 正しい姿勢で座る	34%	57%	9%	0%	100%
4 はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す	25%	55%	18%	2%	100%
5 話す人を見ながら最後まで聞く	30%	55%	11%	4%	100%
6 むだ話や手遊びをしない	34%	55%	9%	2%	100%
7 必要のないものを机の上に置かない	66%	29%	4%	2%	100%
8 学習中、勝手に席を離れない	91%	5%	2%	2%	100%
9 学習の終わりのあいさつをきちんとする	68%	29%	4%	0%	100%
10 学習用具を片付け、次の学習の準備をする	46%	44%	7%	4%	100%



《共通・一貫・徹底・統一に関すること》

- ・全校で徹底して行うこと。全校で統一した指導をする。
- ・定着するまで何度も指導する。指導の継続。繰り返し指導する。
- ・日常的な繰り返しの指導。根気強く、毎日継続的に指導すること。日々のねばり強い指導。
- ・担任を含め全職員の共通指導の徹底。担任間の規律を揃え、児童の負担を減らす。
- ・習慣化するまではしつこく声をかける。こまめな声かけ。日常からの声かけ。
- ・全校で統一されたルールを職員間である程度共通理解して指導する。
- ・職員間で指導強化事項の共通理解を図り、指導を実践する。
- ・日々の声かけ、場面指導を継続して徹底する。
- ・毎日、子どもたちと確認する。・学校にあるきまりを定期的に確認する。
- ・その都度声かけをする。集会などで確認をする。
- ・学級の係活動などを通じ、全体で取り組むと効果があると思います。
- ・規律を明確に共通理解し、各授業で必ず行う。
- ・その場でその時に声かけをして習慣づけさせる。
- ・低学年時でのルールの明示と徹底(学年が上がってからは定着しづらい)
- ・教育の共通の思いと意思統一。職員間で求めるレベルを統一する。
- ・TTや教室の巡回などで個別指導する。
- ・家庭学習の取組、宿題についても、どの教科でも等しく取り組む
- ・年度当初、学期始めの指導



《指導者の意識》

- ・担任以外も意識できるよう声掛けを増やす。
- ・徹底させるなら、指導者の意識を高めることが必要ではないか？
- ・教師自身が時間を守る。「大人」「全員」が実行できる「人」になる。
- ・自らできるまで待つ(スルーしない)、待ってもできない場合は声掛けをする。
- ・教室内の規律の提示を何度も確認し、繰り返し指導する。できなければ、できるまでやり直す、待つ。
- ・年度当初のうちに共通する規律を確認したり手引きを作成したりして共通認識を図り、教師間で共通事項を把握しておく。

《ほめる指導に関すること》

- ・学習規律を守っている児童を褒めながら仲間を増やしていく。
- ・1年の始めにルールを決め毎日指導すること。正しくできたときはほめる。
- ・良いところをほめ、好ましい行動を引き出す取組。日々の指導、ほめる。
- ・規律をきちんと守れている子をクラス全員の前でほめ、他の子にもやる気にさせる。
- ・規律を守る理由を明確に示し、納得させる。できている子をほめる。
- ・名寄市の取組をすべての学校で確認して確実に進めていく

《目標設定・評価活動等に関すること》

- ・学級で10項目から重点を決め、毎日の朝の会でその中からその日のめあてを確認し、意識して生活させ、帰りの会で評価を行う。学期毎に子どもに10項目について自己評価させ、各自の重点目標を立て更なる向上を目指す。
- ・掲示物、週ごとにピンポイントに目標を立てる。掲示物などで視覚的に意識させる。
- ・名寄小学校で行っているチェック活動が効果的だと思います。
- ・月ごとに重点項目を決め、取組の評価をする。
- ・しっかりとした”見通し”をもたせること(視覚化、声かけの徹底)
- ・名寄市の学習規律を児童の実態に合わせて見直していくこと。
- ・定期的に児童アンケートを実施し、評価・改善を図ること。
- ・ふり返りシートを用意し、子ども自身にふり返らせる。学級で目標を決め、振り返りながら取り組んでいく。
- ・自覚なく守れないことがほとんどなので、まずはきまりを理解させるところから地道に指導しています。

《その他》

- ・通信等で保護者にも伝え、家庭とも連携していくこと。・家庭のしつけ。(協力を得る)
- ・話を聞く態度、姿勢をもっと指導していかないといけない。身長にあった机、いすの整備(姿勢にかかわって)
- ・①姿勢②次の学習を準備してから休み時間にすることが最優先だと思います。
- ・日ごろの指導が通る関係づくりと家庭教育。
- ・教育の指導能力の向上、関心興味のもてる授業づくり(学習意欲の向上)

◇学習規律に関するアンケート結果を踏まえた提案

【名寄市全校の月別重点目標の統一】

☆ 9月 「学習用具を片付け、次の学習の準備をする」:学習用具

☆10月 「正しい姿勢で座る」:姿勢

☆11月 「話す人を見ながら最後まで聞く」「むだ話や手遊びをしない」:聞き方

☆12月 「はっきり返事をし、みんなで聞こえる声で話す」:話し方

【月別重点目標の掲示】

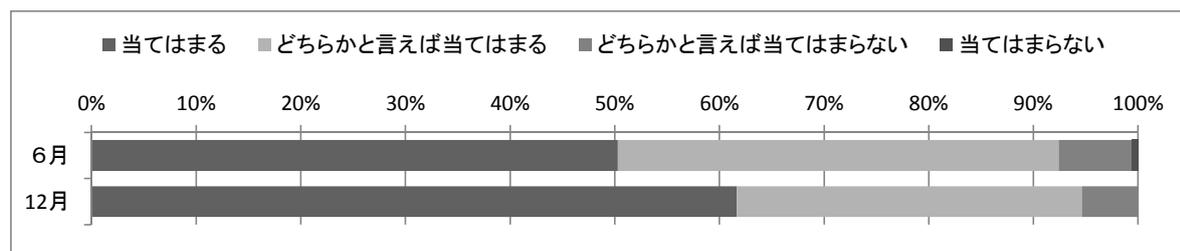
☆重点目標を必ず掲示する *参考例(データ)は「学習指導グループ」が作成

【12月に2回目のアンケートを集約】

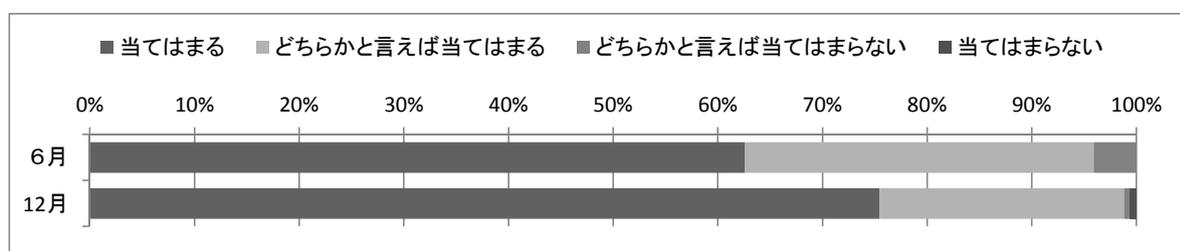
☆6月期との比較…成果と課題の分析

平成26年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
学習規律の徹底にかかわる調査結果(6月期・12月期)
小中合計

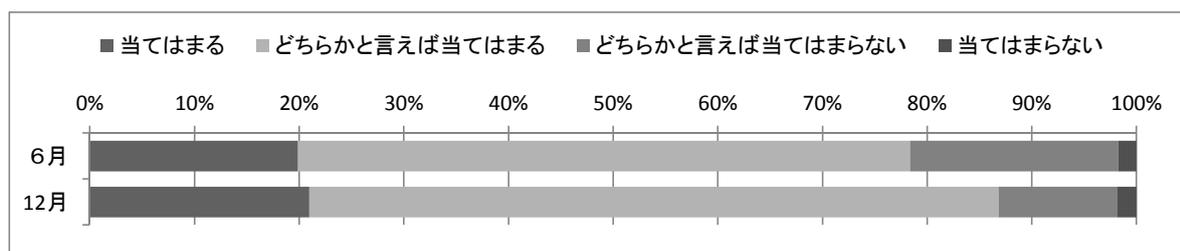
質問番号	質問事項				
1	チャイムがなったら素早く席に着く				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	50.3%	42.1%	7.0%	0.6%	100%
12月	61.7%	32.9%	5.4%	0.0%	100%



質問番号	質問事項				
2	学習の始めのあいさつをきちんとする				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	62.6%	33.3%	4.1%	0.0%	100%
12月	75.4%	23.4%	0.6%	0.6%	100%

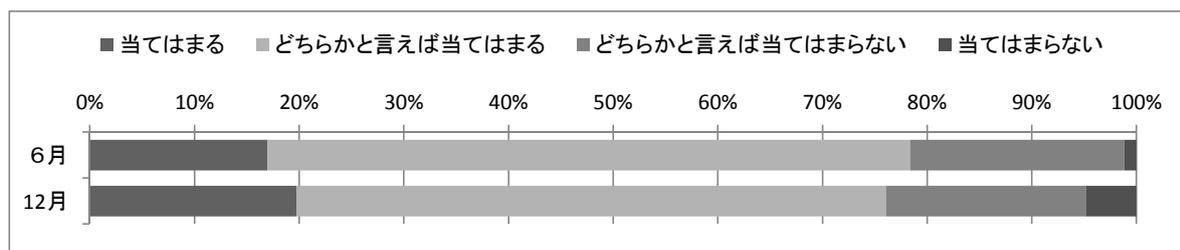


質問番号	質問事項				
3	正しい姿勢で座る				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	19.9%	58.5%	19.9%	1.8%	100%
12月	21.0%	65.9%	11.4%	1.8%	100%

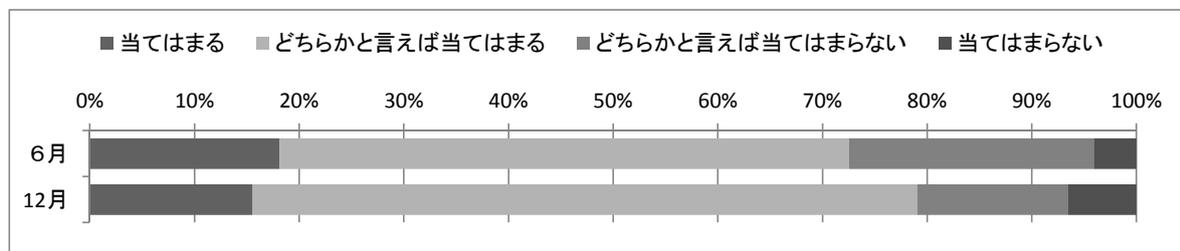


平成26年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
学習規律の徹底にかかわる調査結果(6月期・12月期)
小中合計

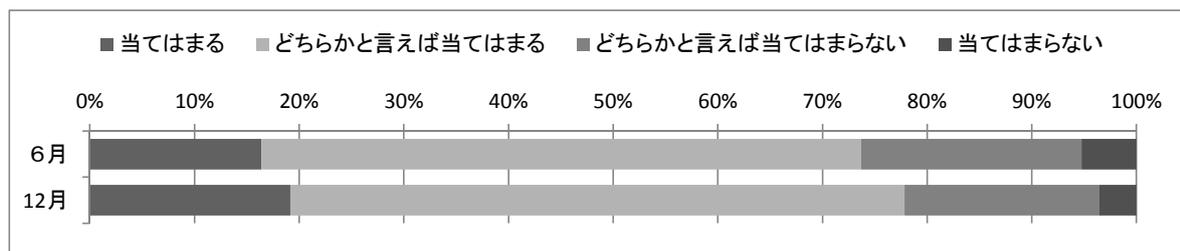
質問番号	質問事項				
4	はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	17.0%	61.4%	20.5%	1.2%	100%
12月	19.8%	56.3%	19.2%	4.8%	100%



質問番号	質問事項				
5	話す人を見ながら最後まで聞く				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	18.1%	54.4%	23.4%	4.1%	100%
12月	15.6%	63.5%	14.4%	6.6%	100%

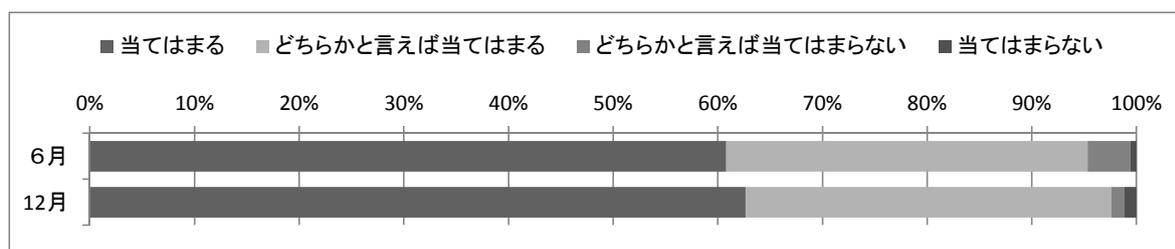


質問番号	質問事項				
6	むだ話や手遊びをしない				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	16.4%	57.3%	21.1%	5.3%	100%
12月	19.2%	58.7%	18.6%	3.6%	100%

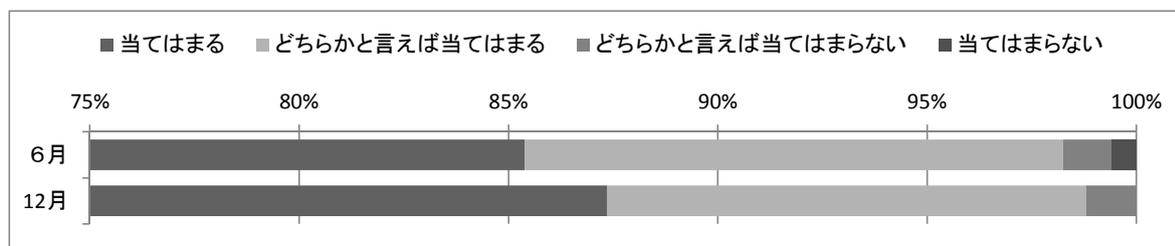


平成26年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
学習規律の徹底にかかわる調査結果(6月期・12月期)
小中合計

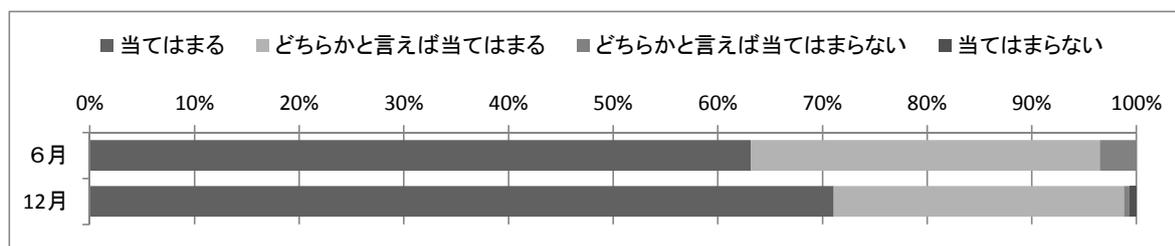
質問番号	質問事項				
7	必要のないものを机の上に置かない				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	60.8%	34.5%	4.1%	0.6%	100%
12月	62.7%	34.9%	1.2%	1.2%	100%



質問番号	質問事項				
8	学習中、勝手に席を離れない				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	85.4%	12.9%	1.2%	0.6%	100%
12月	87.3%	11.4%	1.2%	0.0%	100%

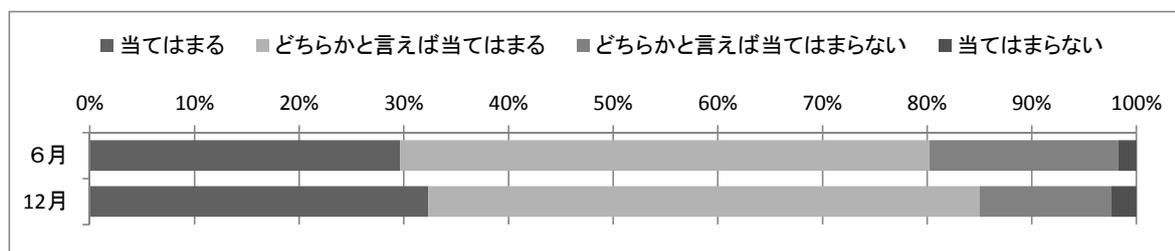


質問番号	質問事項				
9	学習の終わりのあいさつをきちんとする				
選択肢	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	63.2%	33.3%	3.5%	0.0%	100%
12月	71.1%	27.7%	0.6%	0.6%	100%

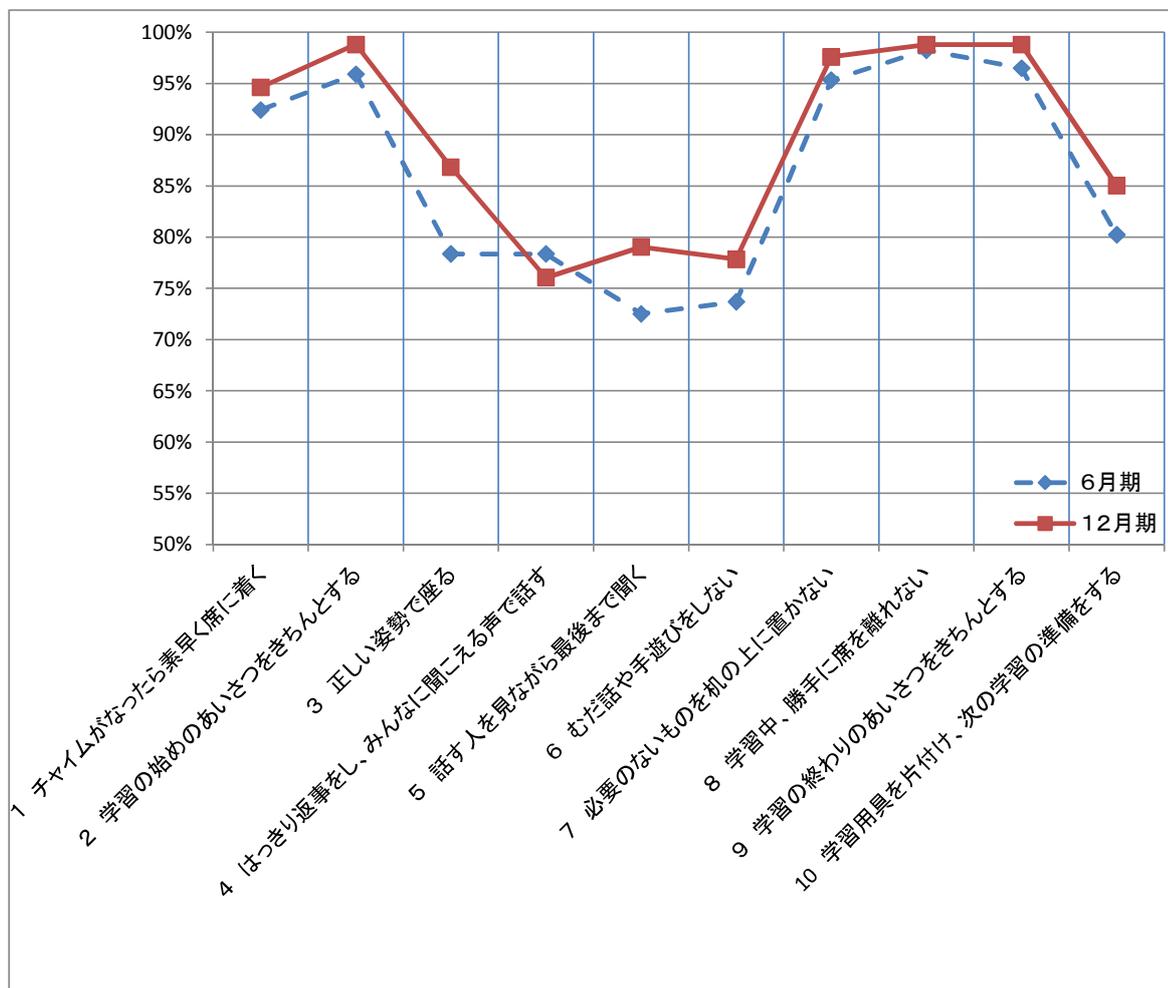


平成26年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
学習規律の徹底にかかわる調査結果(6月期・12月期)
小中合計

質問番号	質問事項				
10	学習用具を片付け、次の学習の準備をする				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	計
6月	29.7%	50.6%	18.0%	1.7%	100%
12月	32.3%	52.7%	12.6%	2.4%	100%



【小中全体】学習規律アンケート「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」



学習規律アンケート結果の分析と課題（12月期）

1 学習規律アンケートの結果について

(1) 小学校

すべての項目で6月アンケートを上回った。平均7.1ポイントの改善がみられた。特に、授業の始めと終わりのあいさつについては、100%となった。

また、「話す人を見ながら最後まで聞く」(+18.9ポイント)、「正しい姿勢で座る」(+13.7ポイント)、「むだ話や手遊びをしない」(+12.7ポイント)では10ポイント以上の改善がみられた。

(2) 中学校

設問4「はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す」(-21.1ポイント)、設問5「話す人を見ながら最後まで聞く」(-19.0ポイント)、設問6「むだ話や手遊びをしない」(-13.4ポイント)の3点で課題がみられた。

2 重点目標設定の取組について

6月アンケートの結果を受けて、10月から課題となっている3項目（姿勢・聞き方・話し方）について名寄市内の全小中学校が統一した取組を実施した。その結果、大きな改善がみられた。

改善があまりみられなかった「はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す」は、重点的な取組が12月であり、12月期のアンケート実施が12月だったため、十分な取組や実践等ができなかった。

3 今後の課題について

「話す・聞く」姿勢や態度に課題がみられた。指導に工夫と改善が必要である。

今回は、教師アンケートによる評価を行ったが、児童や生徒にも同様なアンケートを実施して、児童や生徒自身の力で改善できるような取組も考えられる。

小学校 第6学年 道徳学習指導案

主題名	困難を乗り越えて		
資料名	名寄岩	出典	自作資料（参考文献：「涙の敢闘賞」）
学習指導要領の「内容」	1－（2）希望・勇気・努力 より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。		
ねらい	より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度を養う。		
資料のあらすじ	名寄岩は相撲界で『名寄』を全国的に広めた力士である。昭和7年の初土俵以来昭和29年（40歳）の引退まで不撓不屈の精神で相撲を取り続ける。「病気のデパート」と名付けられるほど多くの病気を患い、自分が努力して勝ち取った大関から陥落。しかし、相手力士とも病とも勇気をもって立ち向かった名寄岩。律儀で礼儀正しい名寄岩の相撲道は、「力士の鑑」として、日本相撲協会より特別賞を受賞する。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	6年生は、小学校最高学年として自分の将来について真剣に考え始める時期である。自分を振り返る段階において、日常生活で努力していることや今後努力すべきことを交流し合う活動を通して、自己実現のための実践意欲を喚起する。また、キャリア教育の一環として、目標をもって生活することの大切さを指導する際に、本時の学習を関連付ける。		
評価	目標に向かって、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度が養われたか。		

段階	学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点 ◆指導の工夫 ★評価
導入	(1) 本時の価値への方向付けをする。 ・自分の夢を想起する。	●本時のねらいを明確にする。 ◆「私たちの道徳」を活用する。
展開	(2) 名寄岩について知っていることを発表する。 ・お相撲さん ・名寄出身の人 ・スポーツセンターにある銅像 (3) 「名寄岩」を読んで話し合う。 ① 弟弟子の羽黒山に大関昇進で先を越された時、名寄岩はどんな気持ちだったか。 ・先を越されて悔しい。 ・もっと努力して、自分も大関になりたい。 ② 努力を続けて大関になった名寄岩は、どんな気持ちだったか。 ・努力が実ってうれしい。 ・これからもしっかりと頑張ろう。 ③ 病気を患い、自分が努力して勝ち取った大関から陥落したとき、名寄岩はどんな気持ちだったか。 ・陥落して悔しい。 ・相撲をやめたい。 ・もっと努力してもう一度大関になる。 ④ 相撲をやめる道を選ばず、好成績で敢闘賞を受賞した名寄岩をどう思いますか。 ・自分の夢に向かって努力をする姿勢がすばらしい。 ・自分もその姿勢を見習いたい。 ・自分も努力して夢を実現したい。 ----- (4) 生活を振り返って話し合う。 ① 自分で目標を立てて努力していることやこれから努力したいことはどんなことがありますか。 ・プロ野球選手になるために練習している。 ・保育士になるためにもっと勉強したい。	◆写真や映像を提示し、資料への導入を図る。 ◆資料の提示方法を工夫する。 ●弟弟子に先を越された悔しさを共感させる。 ●悔しい思いをもちながらも、自分の目標に向かって努力を続けた名寄岩に共感させる。 ●困難に挫折しそうになりながらも、自分の目標に向かって頑張ろうとする心の葛藤を理解させる。＜心の揺さぶり＞ ◆ワークシートを活用する。 ●目標達成のためには、だれもが弱さを乗り越えていることに気づかせる。 ●名寄岩の充実感や満足感を通して、目標達成の喜びを感じ取らせる。 ★目標に向かって、希望をもってくじけないで努力することの大切さについて考えることができたか。 ----- ◆ワークシートを活用する。 ◆今後努力すべきことを交流することで目標に向かって努力しようとする実践意欲を喚起する。 ★目標に向かって努力しようとする実践意欲を高めることができたか。
終末	(5) 本時を振り返る。 ① 本時の学習から気付いたことや心に残ったことを発表する。 ② 教師の説話	◆本時の価値について確認する。 ●「私たちの道徳」を活用する。

名寄岩

北海道名寄市のほぼ中央に位置するスポーツセンター、そこに大きな力士の銅像が立っています。

今では、お年寄りの方しか知らないかもしれませんが。この力士の名前は「名寄岩」。昭和初期を代表する大関の一人です。この銅像が立っている名寄市は、北海道でも有数の豪雪地帯です。もちろん、この銅像にもたくさん雪が積もります。それでも、「名寄岩」は長い間、前を見据えて堂々と立っています。さて、この「名寄岩」はどのような人生を歩んできたのでしょうか。

昭和四年から約十六年もの間、名寄のまちで過ごしていた名寄岩（本名 岩壁静夫）。十六才の時に勉強のため東京へ上京した際、立浪親方にスカウトされ、そのまま相撲界へと進みました。

他の誰よりも体格の良かった名寄岩は、昭和十年には全勝優勝し、三段目を一場所通過。翌年には幕下でも優勝し、入幕を果たします。しかしその一方で、同じ相撲部屋の後輩である「羽黒山」が、名寄岩以上の速さで昇進を決めていきました。名寄岩は羽黒山をライバル視しながらも、相撲へ一生懸命に取り組みました。

転機が訪れたのは昭和十四年。二人はともに関脇となり、同時に大関の昇進をかけて対戦することになったのです。絶対に後輩には負けたくない名寄岩。勝負にかける意気込みは、今まで以上のものでした。しかし、結果は羽黒山に軍配が上がりました。名寄岩は敗れ、弟子の羽黒山が大関へと昇進したのです。同じ部屋の力士とはいえ、後輩に大関昇進で先を越されてしまった名寄岩は、どれだけ悔しかったでしょう。

けれども、名寄岩は努力を惜しみませんでした。再び、大関になるために立ち上がったのです。その努力の甲斐もあつて、三年後には、念願の大関に昇進することができました。

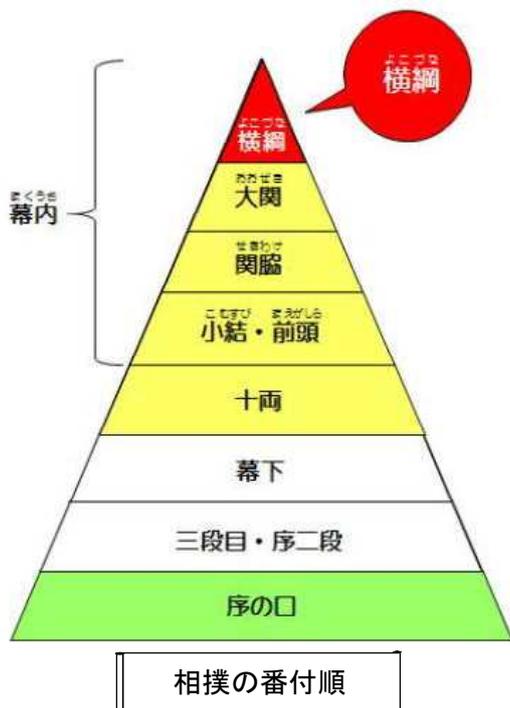
そんな喜びとはうらはらに、多くの病気を患い、周囲からは「病気のデパート」と名付けられるほどでした。痛みのせいで稽古も十分にできません。だんだん、全盛期の活躍は見られなくなり、十一戦全敗という成績を残すまでとなつてしまいました。自分が努力して勝ち取った大関からも陥落してしまいました。そんな名寄岩の様子を見て、周囲の人たちは、名寄岩の引退をささやき始めていました。

しかし、負けず嫌いの名寄岩の思いは違いました。名寄岩は相撲をやめる道を選ばなかったのです。三勝十二敗という成績に甘んじた次の場所で、名寄岩は見ちがえるような姿を見せました。痛みをたえてがんばったのです。最終的に九勝五敗の成績を残し、勇気をもって戦ったことを賞する敢闘賞が授与されました。これは、多くの力士と病に立ち向かった名寄岩の勇気が認められたしゅん間でもありました。

名寄岩は、こう語っています。「わたしは日ごろ、人間は苦勞しなければ、本当の人間にはなれないと、よく若い者にも言い聞かせていますが、相撲取りの場合も『艱難汝を玉にす』であつて、どこまでも苦勞をしのいでゆくことが大切ではなからうかと考えています。」

名寄岩の姿が全力士の鏡として、日本相撲協会から特別表彰を受けたのは、四十歳のとき。

多くの力士や病に立ち向かい、「不撓不屈」の精神を讃えられ名寄岩は銅像となつて今でも、名寄の地で立ち続けています。



名寄岩の像

教育改善プロジェクト 道徳研究授業 事後記録

日 時 平成26年11月27日(木) 3校時

授業者 松田 隆之

学 級 名寄南小学校6年2組

■事後研の記録

授業者の反省

- 資料については地域に関連するもの(名寄岩)だったので、児童にとって身近な資料であり、将来への価値付けとして意義のあるものと考えて授業を行った。
- 児童はそれぞれ夢をもっているが、それを実現するためにどうしたらよいかというのは見えていないので、今回のようなワークシートを利用した。

導入段階

- 最初に夢についての話し合いや発表があったことが良かった。
- 資料提示をコンパクトにしてあり、子どもを惹き付ける提示であった。

☆ねらい通り、短い時間のなかで子どもたちを惹き付けていくという方向で今後も行う。

展開(前半)

- 授業のねらいである「希望と勇気をもってくじけないで努力する」という考えで、このようにしていくべきだという事がとても伝わる授業展開であったが、「逃げるのも勇気」「弱い部分もあって」という考え等も最初の切り口のなかにあった上で、授業のねらいにせまっていけると、もっとよかったのではないか。
- 映像(稽古の様子)なども提示できると、価値の重さが伝わるのでは。時間が心配だが。
- 大関はどれくらいの価値なのか。たくさんの力士の中のごくわずかな位であるからこそ、そこを伝えられる資料なら、なおよかったのでは。
- 「心が折れる」という発問が大変よかった。その返り咲いた苦労が伝えられればよかったのでは。

Q 本時のねらいから考えた中心発問は何だったか。

→大関に落ちたときの名寄岩の気持ちをメインにし、児童からでた「弱気になる。努力する気がなくなる」という言葉を価値づけて、そこから目標へと結びつけていきたかったので、そこを重点化して子どもたちに発表を繰り返させた。

Q 板書が授業の流れにそった位置に書かれていなかったが。

→名寄岩に対する考えを、名寄岩の画像や言葉に近いところに書いた方がよいと感じたため。

Q 資料の見せ方。途中で区切っていたが。

→いろいろなやり方がある。読み物資料を出すのではなく画像を中心に提示していく方法も実践していたが、今回は読み物資料の文字を子どもの頭に映像化していくという方法をとったので、今日の授業展開にした。

☆いただいた意見は改善プロジェクトへの意見として受け止め、今後の改善に生かしたい。

☆映像は使いたいのだが、1時間で授業を収めるには厳しいと考えた。

☆人間の弱さについて揺さぶっていくというのは、今後の課題としたい。

展開（後半）

Q 過去の挫折経験を想起し、しっかり考えさせていったほうが、資料の内容に沿っているのでは。また、6年2組の子どもたちはどのように成長したと思うか。

→今回の授業では、目標を達成するためにどのような努力をすれば夢に近づくのかという部分を子どもたちが書ければ、それが成長であると考えて授業を行った。子どもたちの挫折の例に関しては、事前にアンケートをとったが、あまり良い例がなかったのが実態。アンケートでわかった例は授業の節々で話題にしようと考えていた。実際に子どもたちが書いた文章からは具体的に書けている様子が見とれたので、成長できたと考えている。

Q 読み物資料にかかる時間が長かったように思うが。道徳の授業は、自分の考えを述べる時間が多いイメージをもっているが。

→いろんなパターンが存在して良いのではないか。資料の内容、子どもの実態、同じ価値でも提示する時期の違いで、資料の扱い方も変わってくると考える。今回の資料については、名寄岩のことをしっかりと理解し、資料に浸かってほしかったので、時間を少し長めにとった。

終末

○終末段階では、いろいろなやり方があると思うが、学んだ価値をしっかりと子どもたちに返すことが大切である。

その他

○資料が少し情報不足なのでは？時間的、年齢的、人数的な情報や、病気から立ち直った苦労、それを支えた家族の存在なども書かれていると、夢の実現のため、努力のためにはいろいろな要素が関わっていることも気付かせることができるのでは。

○「逃げる」「諦める」は違うと考える。「勇気をもって逃げる」ではなく「勇気をもって諦める」。その違いを学ばせたいが、今回の授業では、そこまでは扱わなかった。